

わが国の野球界における指導者養成システムの提案 —高等学校野球部の指導環境からのアプローチ—

A proposal of leadership training system in Japanese baseball: approaching from coaching circumstance of high school baseball teams

1K05B236

吉澤 信

指導教員

主査 作野誠一先生

副査 間野義之先生

【諸言】

日本の野球はこの先も国民的スポーツであり続けることができるだろうか。

わが国の野球界には乗り越えるべき問題が山積みしている。プロ野球の人気低迷、一流日本人選手の海外流出、少子化、趣味、競技種目選択の多様化など野球界の問題から社会的な問題まで様々である。現在の野球をファンとして支えているのは中高年世代であり、この先数十年後には今のように支え続けてくれる人々がいるとは限らない。わが国の野球の永続的な発展のためにも早急に「将来への投資」が必要なのである。

では、「将来への投資」として野球界は何ができるだろうか。プロ野球の地域密着経営、ファンサービスの充実、アマチュア野球の発展、さらには全世界的スポーツにするための海外での普及活動などさまざまな投資が考えられる。つまり普及および発展に繋がる対策を講じ続けなければならない。また、普及、発展のためにも現場で野球をする競技者にとってより良い環境を創造することが必要であり、競技者育成に欠かせないのが指導者の存在である。しかし、その重要な指導者を教育する体制がわが国の野球界においては確立しておらず、この環境下で活動をする指導者が適切な指導をしているかどうかについては、少々疑問が残る。競技者の持つ可能性を最大限発揮するためにも、野球界の普及、発展のためにも指導者を養成する仕組みづくりが必要といえるだろう。

その第一歩として、本研究は、高校野球における指導者を取り巻く環境の調査を通じて現状と

課題を整理するとともに、それをもとに望ましい指導者養成制度を提案することを目的とする。

【研究方法】

本研究では、高校野球指導者の現状と課題を把握するために、神奈川県高校野球連盟の全加盟校 193 校 (2008 年 5 月 1 日現在) へ質問用紙を郵送し、質問紙調査を実施した。アンケート調査により組織の概要、指導方針、悩み、競技歴、指導歴、指導者養成制度に対する考え等を明らかにし、活動における弊害要因を可視化する。回収票は 67、回収率は 34.7%であった。

【結果と考察】

分析の結果、教員の多忙さの影響、さらには指導者養成の講習会を受講することの効果に対する期待が少ないこともあって、公認ライセンス制度の導入には反対の意見が多く見られた。一方で、過去に講習会に参加したことがある経験を持つ指導者は、今後も講習会受講を希望しており、逆に参加経験のない指導者は今後の講習会受講の希望が少ない傾向が見られた。今後はいかに講習会参加へのきっかけをつくり、指導者の教育を行っていくかが重要であろう。

また、指導の際に「参考にしているもの(現状)」と、「効果的なもの(事後評価)」の比較をしたところ、「指導者講習会」のみ事後評価が現状と比べて高いという結果が得られた。この結果から、指導者講習会の実効性があると推測される。

悩みに関する全体的な傾向としては、練習機

材の確保などの練習環境に関する悩みが多く、上下関係などの人間関係における悩みは少ないことが判明した。悩みが多い指導者の背景として、競技年数が長いこと、指導者の数に不足感を感じていることが挙げられ、逆に悩みが少ない指導者の背景として、指導年数が長いこと、指導者最高成績が高いことなどが明らかになった。

研修がどのような悩み・問題の解消に効果があるかを調査したところ、指導技術に関する項目に加え、「部員たちの野球への取り組む姿勢や態度」などの教育的要素も研修によって解消できると考える指導者が比較的多いことも判明した。

自由記述から抽出されたキーワードとして、学校環境の問題、二極化、長期的視野に立った指導、環境適応能力が挙げられた。

【提案】

先行研究の検討及び本研究の調査結果から、指導者養成システムについて、1)情報共有および指導者間交流の必要性、2)講習会の積極的導入、3)教員の負担軽減策の必要性、4)指導者を介さない選手指導の可能性、5)競技開始期における指導の重要性、6)組織の役割の明確化、以上の6点を具体的に提案した。